

# 「切断」のち「同化」

## 小林耕平 x 高橋耕平

昨年10月にスタートした小林耕平 × 高橋耕平による「遠隔同化—二人の耕平」。その後、同じ二人の耕平は、豊田市美術館で開催した「切断してみる。—二人の耕平」での「切断」にまつわる5つの課題の実践を通して、想定外(?)にも、作家としての主体を露にし、思わぬ同化の一端を垣間見せた。この経験を受け、クマガスクで「同化」を顧みる。今回は、4つの課題。お互いの手の内も分かったところで、それぞれの取り組み方はどうなるのだろうか。「切断」のち「同化」の試み。

### 【同化と〇〇 境目を意識する】

同化は完全に「一」の状態なのか。ぴったりと重なった状態。ただ、そこにどんな区別も境目もないとなると、同化していると、どうやって証明することができるのだろうか。一つしか見えなければ、最初から一つしかないように思われるのだから、同化という出来事が起こっているのかも分からない。

同化を確かめるために、少しだけズラして、わずかな境目を意識してみる。

4つの部屋と一つの共有スペースから成るクマガスクの構造が、境目を意識することを可能にしてくれる。

### 【Room1】同化と相似

大きさが違って、同じ性質を持っているのなら、同化していることになるのではないだろうか。距離を変えれば、大きさは変更できるのだから。強度が違って、同じ性質を持てたなら、それは同化なのではないだろうか。強度の違いは、確かめられるのか。

小林耕平 《あくびの反転》  
高橋耕平 《歌》

### 【Room2】同化と素通り

私のなかに／何かのなかに空洞を作る。何でも通り抜ける空洞。その空洞が塞がったとき、同化は起こっていることになるのだろうか。空洞を通り抜ける。何かの空洞を塞ぐとき、その何かに同化していることになるのだろうか。何かの一部になることと、同化は違うのだろうか。空洞の輪郭を感じることは、同化を感じるようになるのだろうか。

小林耕平 《指先を波に通す》  
高橋耕平 《口口》

### 【Room3】同化と包摂

個々のものを入れる大きな袋を考える。大きな袋の中身が見えなければ、個々のものが中にあることは分からない。外から一つしか見えないとき、中は同化していることになるのだろうか。袋が揺れて中身が混ざり合う。輪郭が溶けてなくなる。それでも外から見た袋は、前と同じままなのだろうか。

小林耕平 《ラクダのこぶと腹筋を鍛えること》  
高橋耕平 《48》

### 【Room4】同化と類似

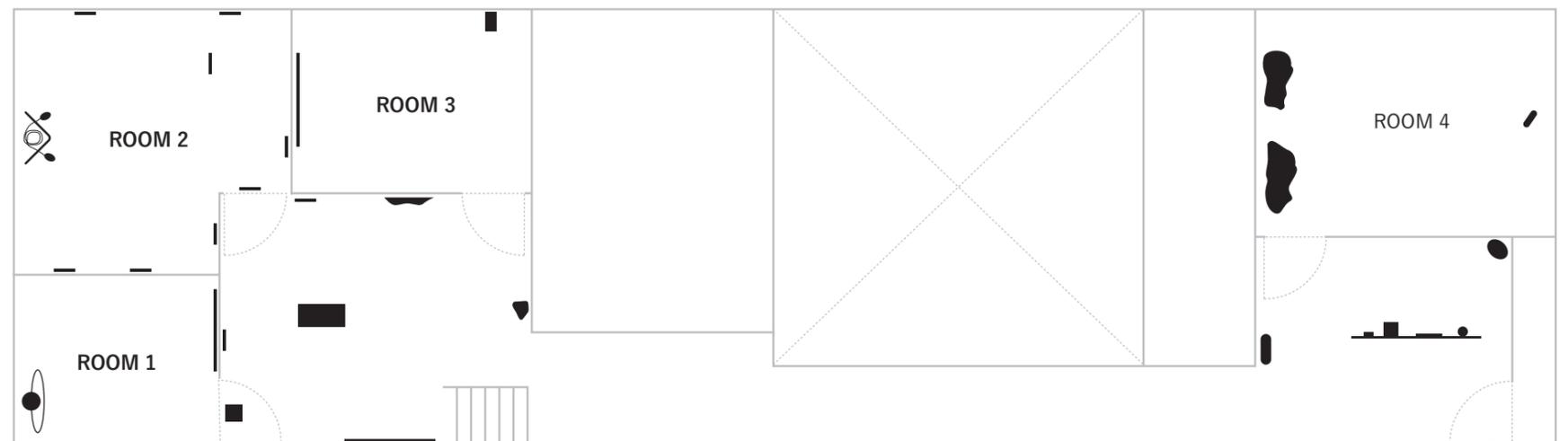
同じであることと、似ていることは違うのだろうか。何かに似ていると認めることは、それを受け入れることではないだろうか。受け入れたのなら、受け入れたその部分は、同化していることになるのではないだろうか。同じと、似ているを区別するものは？

小林耕平 《運動の表裏》  
高橋耕平 《石たち》

### 【共有スペース】同化のレッスン

①から④の起点となる同化のためのレッスン。境目を意識することで、同化はどんな姿を見せるのか。

2F at KYOTO Art Hostel Kumagusuku



Kohei Kobayashi Kohei Takahashi